

多点出力付 メインユニット

PU16RY (16点リレー出力付)
PU24RY (24点リレー出力付)
PU32RY (32点リレー出力付)
PU40RY (40点リレー出力付き)

tkSK-007

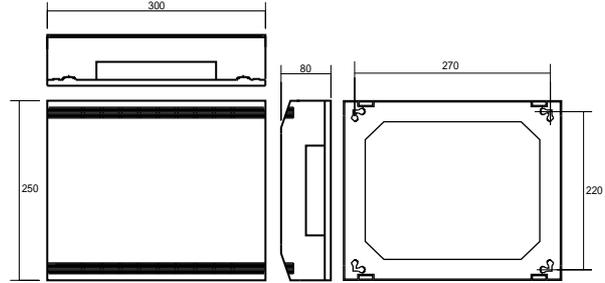
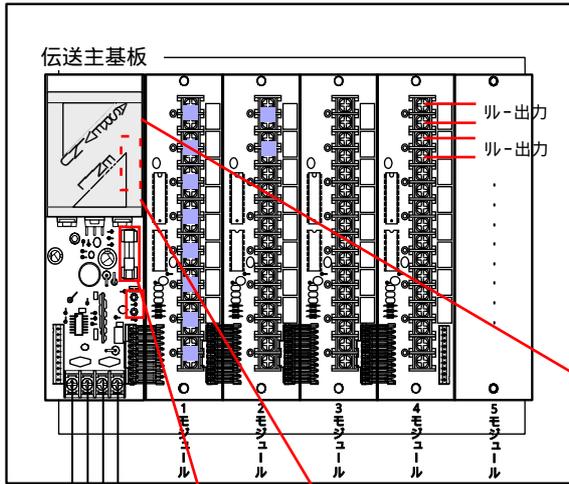
Ver-3.8

特徴

- ・伝送用電源PU01に増設用8点入力基板を増設したものです。
- ・サブユニット間の通信を可能にし、一部の信号をこのユニットで出力できます。
- ・PU RYはサブユニットからの入力信号を受けてリレー出力することができます。

ユニット説明

(例) PU32RY



モジュール構成

モジュールNO.	型番
1モジュール	-
2モジュール	PU16RY
3モジュール	PU24RY
4モジュール	PU32RY
5モジュール	PU40RY

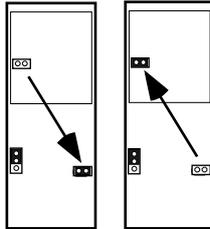
12Vor24V
0V
伝送ライン+
伝送ライン-
リレー出力基板の電圧によって異なります。

伝送ラインショート時にヒューズが切れます。切れた時は配線方法等を確認した上で交換してください。(セット0.5A)

CK...正常動作時点滅
DT...データ入力時点滅
データ入力が多いほど明るく点滅

ジャンパによるモードの切替方法

メインモード (伝送親局) サブモード (伝送子局)



ジャンパにより伝送主基板のモードの切替えができます

メインモード 伝送加ック出力あり。システム1ラインに必ず1台必要です。2台以降は全てサブモードとして使用します。
サブモード 伝送加ックなし。多点I/Oの伝送I/Fとして使用する場合に設定します。メインモードに設定した伝送主基板を同一伝送ライン上に2台以上接続すると伝送加ックが当たって故障の原因となります。

増設基板用出力アドレス設定

出力設定SW

設定方法

出力の設定は設定したい最後尾のアドレスになるようにSW2の重みを合計します。

アドレスは連続したアドレスになります。



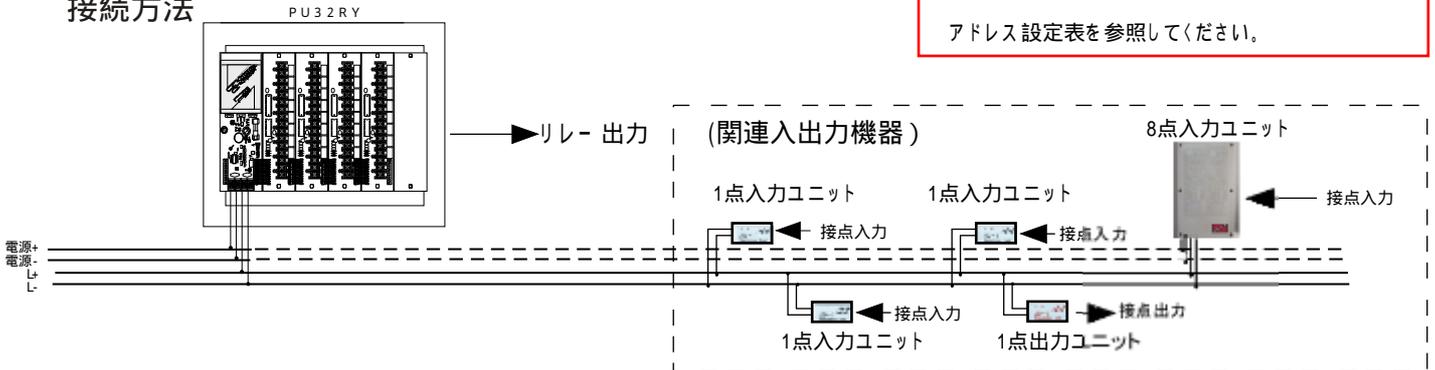
例
17~24に設定する場合...最後尾は24ですので、2進数の合計が24になるように設定します。SW4,5をON。

伝送メイン基板の放熱フィンの下にあるデバッグSWで設定します。それぞれのSWに下記の2進数が割付けてあります。

SWNo	2進数
1	1
2	2
3	4
4	8
5	16
6	32
7	64
8	128

アドレス設定表を参照してください。

接続方法



仕様

電源電圧	DC12V専用もしくはDC24V専用
消費電流	600~900mA (突入電流1A)
クロック周波数	約512Hz
クロック数	256 (128・64)
内部出力点数	16点~40点 (外部に256点まで増設可)
接点定格	DC24V 1A

DC24V用は末尾に-2が付きます。

配線方法・分岐は自由です。極性のみお気をつけください。

アドレス
時分割多重伝送の時間的な位置の事で、その位置に接点信号のON/OFF状態が入ります。通常このアドレスは256ありこのアドレス=接点信号のI/O番号となります。